子宮頸がん予防ワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン・高齢者肺炎球菌ワクチン接種に係わる要望書

「子宮頸がん予防ワクチン」接種については、「子宮頸がん」は、わが国で一万五千人が罹患し、その内三千五百人が死亡していると推計され、近年、若い女性の罹患が急増。死亡率も高いことから、女性の健康に深刻な影響を与えております。しかし、ほとんどの子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）の感染が原因と解明されていることと、子宮頸部に癌ができるため観察が容易であることから。ワクチン接種と定期検診により「予防できる唯一のがん」と言われております。

「小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン」接種については、「細菌性髄膜炎」に感染するのを防ぐためです。「細菌性髄膜炎」とは、乳幼児が感染をすると、重い後遺症を引き起こしたり、死亡に至る恐れが高い重篤な感染症で、その原因の七五％がヒブと肺炎球菌によるものです。細菌性髄膜炎は早期診断が困難なこと、発症後の治療には限界があることなどから、罹患前の予防が非常に重要で、ヒブや肺炎球菌による細菌性髄膜炎については乳幼児期のワクチン接種により効果的に予防することが可能であることがわかりました。

「高齢者用肺炎球菌ワクチン」接種については、かつて死亡原因の第一位だった肺炎は、戦後、抗生物質の登場で死亡者数が急激に低下し、第四位になったが、一九八〇年以降、再び増加傾向にあります。特に、高齢者の肺炎が急増しているのが特徴。高齢者は肺炎を起こしやすく、起こすと重症化しやすいため、高齢者の死因の上位を占めています。

高齢者で肺炎にかかった人の半数近くは、その原因菌が肺炎球菌となっています。近年、肺炎球菌の抗生剤に対する耐性化も問題になっており、肺炎球菌ワクチンの予防接種の有効性が見直されています。

つきましては、左記の事項について実施して頂くようここに強く要望致します。

記

一、「子宮頸がん予防ワクチン」接種について

（１）事業の完全実施を図るため、全額補助と集団接種を行って頂きたい。

（２）二十四年度以降も接種対象年齢を二十三年度と同様（十三歳～十六歳）にして頂きたい。

二、「小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン」の接種について

（１）全額公費負担をして頂きたい。

三、「高齢者肺炎球菌ワクチン」接種について

（１）接種対象年齢を七十五歳以上ではなく、六十五歳以上にして頂きたい。

（２）全額公費負担をして頂きたい。

（３）生涯一回ではなく、五年に一度程度の実施も付け加えて頂きたい。

平成二十三年三月吉日

公明党蕨市議団

蕨市長

頼高　英雄　様

氏名	住所
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市
	蕨市